

(3) 栽培実験について (案)

- アイヌの伝統文化継承の意義を有する有用植物群の栽培については、その資料的価値ならびに将来の活用をふまえて、適切な生育条件や維持管理方法についての試験研究と実証実験を行うことが必要であることから、栽培実験の継続を行う。

- 栽培実験の継続にあたっては、その目的性を明確にしたうえで、必要に応じて専門的指導を得ながら、有用植物の地域性のある種の多様化と採取・利用のための量的増大のための栽培技術の蓄積と向上を図る。

- 試験栽培圃場としての栽培実験地は、維持管理上、目の届きやすい場所に設置する場合と、実際の保全対象である平取ダム建設予定地内が考えられ、将来的には、例えば、半栽培等の管理方法を取り入れながら、ダム建設予定地において自生植物の循環的利用につなげていくことが考えられる。

- 具体的対象については、保全モデル地区の現状植生を把握したうえで、増殖目的（量的増大）の際の「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物を栽培実験の優先的な対象としてとらえることとし、「代表的植物リスト」の中で平成19年度までに栽培実験を実施していないものについて、保全対象種を検討する際に考慮することとする。

[栽培技術蓄積のための留意点等]

○これまでの栽培試験

時 期	地 区	面 積	対 象 種
平成 15 年～	二風谷地区	約 200m ²	オヒョウ、ミズキ、コケイラン、ユキザサ等
平成 19 年～	芽生地区	約 280m ²	イヌエンジュ、イタヤ類 等

○栽培技術蓄積のための留意点

- ・ 土壌・日当たり・傾斜等の植物の生育条件
- ・ 種の管理、播種・実生植え付け、孫生移植等実施の季節や方法
- ・ 半栽培等に関わる刈払い、枝下ろし等の管理方法
- ・ 上記に応じた観察記録の作成 など

○想定スケジュール（木本の場合）

年数の目安／場所	1 年後	2 年後	3 年後	4～5 年後	5～10 年後	10～20 年後
山林等	種採取					
育苗圃	植付（秋）	育成	育成			
ダム事業用地 等 （保全モデル地区）				移植	育成管理 （半栽培）	材料採取

栽培実験期間